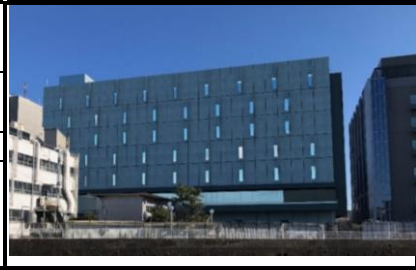


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	アズビル株式会社 藤沢テクノセンター (仮称)第103建物 新築工事	階数	地上6F
建設地	神奈川県 藤沢市 川名 1丁目81番1(他15筆)	構造	S造
用途地域	工業専用地域、防火指定なし(法22条区域)	平均居住人員	155 人
地域区分	7地域	年間使用時間	1,920 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年5月 予定	評価の実施日	2020年12月15日
敷地面積	4,197 m ²	作成者	株式会社日建設計一級建築士事務所
建築面積	2,320 m ²	確認日	2020年12月21日
延床面積	10,721 m ²	確認者	株式会社日建設計一級建築士事務所



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 81% (46 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 81%

④上記+ 81%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.8

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
<p>研究実験施設の計画である。構内全体の動線や既存建物との機能連携を考慮しつつ敷地中央部へ配置、また屋上機械設備には目隠し対応をし、周辺景観に配慮した。外装計画は既存建物との調和に配慮した材料を選択した。建物は研究実験エリアとなるメインボリュームの外周部に設備類機器類等のボリュームを配置する構成とし、機器類の更新・レイアウト変更に対応容易な計画としている。</p>		
<h4>Q1 室内環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 外壁、屋根、窓などからの室内への熱の進入に配慮した外皮性能を確保。 質の高い室内環境を実現するため低温送水・低温送風による能力増強が可能、ペリメータ+インテリア+コング、冷暖アVAVシステムによるゾーン別制御、部分的に放射空調を採用。 内装材F☆☆☆☆の採用、ホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ないものを採用し空気質環境に配慮。 	<h4>Q2 サービス性能</h4> <ul style="list-style-type: none"> 階高を確保、配管の大半を屋外配管とし更新性に配慮した計画としている。 建物の大半を占める実験研究エリア・屋上部を4500N/m²で計画。 主要設備の大半を屋外設置・屋外配管とすることで維持管理・修繕・更新へ配慮している。 	<h4>Q3 室外環境(敷地内)</h4> <ul style="list-style-type: none"> 敷地境界部分は視線を遮らないフェンス設置により防犯性防炎性に配慮。 隔年1度程度、敷地を地域住民等に開放し納涼祭を開催。地域住民との交流、地域住民同士の交流や街の賑わいの形成に貢献を図る。 排熱機器の大半を屋上(GL+25m以上)に設置。
<h4>LR1 エネルギー</h4> <ul style="list-style-type: none"> 太陽熱利用設備を採用。 各種熱量、流量、電力量を計量し、効率評価が可能なモニタリングを行う。 クラウドBEMSを導入し、エネルギー管理業務支援を可能とする。 	<h4>LR2 資源・マテリアル</h4> <ul style="list-style-type: none"> 自動水栓、擬音装置により節水に対応。 既存杭を有効利用し資源生産性の向上に配慮。 	<h4>LR3 敷地外環境</h4> <ul style="list-style-type: none"> 朝夕通勤時、藤沢駅〜アズビル事業所間のシャトル便をチャーターバスにて運行するなど交通負荷への配慮を行う。 高度な厨房除害施設により排出基準以上の水質まで処理。BOD(生物化学的酸素要求量) ≤ 300、SS(浮遊物質) ≤ 300を設計値としている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される